

2018年度第1回 日本学連幹事会 議事録

開催日時：2018年6月2日（土）13:50～19:30

開催場所：群馬県渋川市 渋川市勤労福祉センター

議事録作成者：広報部員 上村 太城（慶應義塾大学）

目次

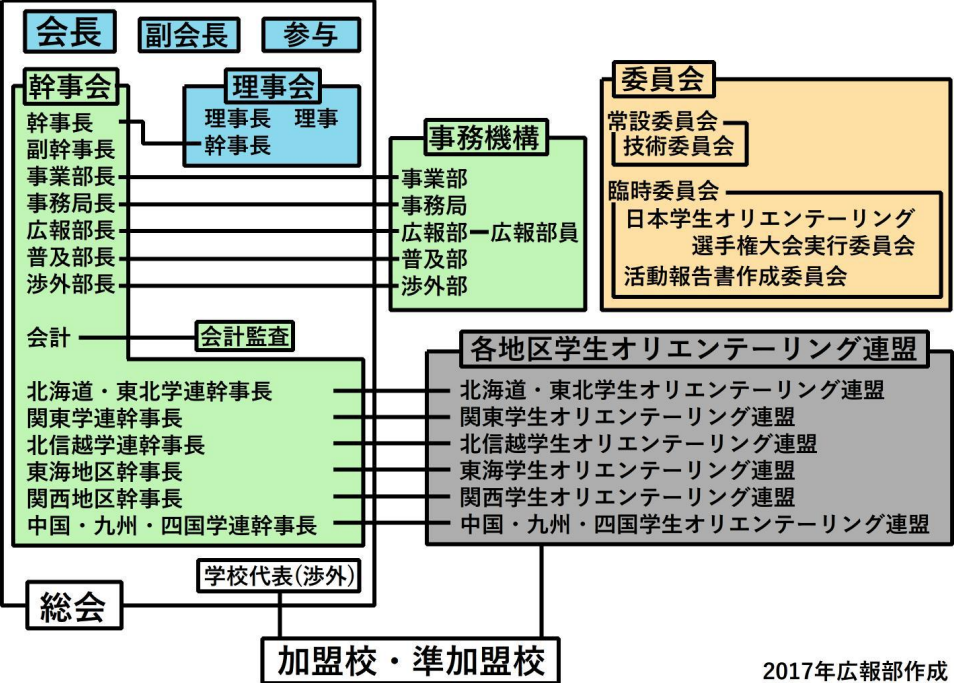
1. 学連の説明・方針の確認（3ページ）
2. 大臣（仮称）の役職名決定（4ページ）
3. 地区学連活動報告（5ページ）
4. 技術委員会報告（6ページ）
5. 理事会報告（7ページ）
6. 各部局活動報告・会計報告（7ページ）
7. 後援申請大会承認（9ページ）
8. 技術委員会について（9ページ）
9. 全日本大会と公認大会について（11ページ）
10. インカレについて（13ページ）
11. インストラクタ講習会について（16ページ）
12. 地図事業及び業務委託契約について（17ページ）
13. アンチ・ドーピング啓蒙活動について（19ページ）
14. 渉外問題に関して（21ページ）
15. 渉外MLの管理について（22ページ）
16. 次回幹事会について（22ページ）

出席者（敬称略）

| 氏名 | 役職 | 学校名 |
|--------|----------------|---------|
| 山川 克則 | 副会長 | 東京大学卒 |
| 海老 成直 | 理事 | 中央大学卒 |
| 前田 悠作 | ICL2017 運営責任者 | 東京工業大学卒 |
| 細川 知希 | ICSL2018 実行委員長 | 名古屋大学卒 |
| 大西 康平 | 技術委員長 | 京都大学卒 |
| 遠藤 匠真 | 幹事長 | 大阪大学 |
| 西嶋 就平 | 副幹事長 | 名古屋大学 |
| 竹内 公一 | 会計 | 名古屋大学 |
| 森河 俊成 | 事業部長 | 京都大学 |
| 上村 太城 | 広報部員 | 慶應義塾大学 |
| 久野 公愛 | 事務局長 | 日本女子大学 |
| 河村 優花 | 事務局員 | 名古屋大学 |
| 臼井 沙耶香 | 普及部長 | 東北大学 |
| 種澤 遼太郎 | 渉外部長 | 東北大学 |
| 塩平 真士 | 会計監査 | 北海道大学 |
| 上野 康平 | 公認大会担当幹事 | 東京工業大学 |
| 丸山 真輝 | インカレ・技術委員会担当幹事 | 東北大学 |
| 林 俊充 | 北東学連幹事長 | 岩手県立大学 |
| 山下 政泰 | 北信越学連幹事長 | 新潟大学 |
| 渡辺 鷹志 | 関東学連幹事長 | 慶應義塾大学 |
| 南雲 裕貴 | 東海学連幹事長 | 名古屋大学 |
| 藤本 拓也 | 関西学連幹事長 | 京都大学 |
| 下江 健史 | 中九四学連幹事長 | 広島大学 |

1. 学連の説明・方針の確認

要旨：年度初めの幹事会ということで、日本学連の組織構造と、今後の議論の方針を確認を行った。

| | |
|----|---|
| 遠藤 | <p>最初に新事務局員の追加の承認をとる必要がある。 新事務局員の河村の承認をとる。</p> |
| | <p>全会一致(15)で承認。</p> |
| 遠藤 | <p>学連の組織の構造について説明する。 以下の図を参照。</p>  <p>2017年広報部作成</p> |
| 大西 | <p>総会は、日本学連の最高意思決定機関である。年2回の定例総会が開かれている。 会長は河合さん、副会長は山川さんが担当している。参与は現在機能していない。理事会もまた、社会人の方が担当している。</p> <p>技術委員会の役割としては、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シード選手の発表 ・学連枠の公開 ・学連合宿の開催 ・ユニバーシアードへの選手派遣事業 ・インカレ規約の改正（インカレプリントの開催や、B決勝の廃止など） <p>などがある。ただし、スキーOの枠組みは特殊であり、技術委員会はフットO</p> |

| | |
|----|---|
| | の範疇で活動している。スキー O のユニバーシアード派遣に関しては JOC の柴田氏が事実上管轄している。 |
| 遠藤 | 今年度は活動報告書を作成する年度であるため、東大 4 年の佐藤に管轄してもらおう。今年度発行する活動報告書は 2016, 2017 年度の活動についてである。 |
| 遠藤 | <p>今年度の日本学連の議論の方針について確認していく。議題の中心は大きく 2 点ある。</p> <p>1. インカレについて 毎年開催されているものの、報告書を参照すると例年同じような問題が恒常化しているの、抜本的な解決を図りたい。特にインカレスプリントの開催体系は不安定であり、財政的にも問題点がみられるため、発足から 4 年目となった今、再確認を行いたい。</p> <p>2. 全日本大会について 大会プロデューサーが山川さんから西村さんに引き継がれることになり、方針転換が予想される。全日本を存続させるために学生ができることを考えていきたい。また、全日本に直結する話題として公認大会についても引き続き議論を進めたい。学生の目指すところを公認大会や全日本に向けたための制度整備を進めるために公認大会担当幹事の上野を中心に議論していく。</p> <p>他には、学連合宿の開催など学連加盟校に与するような取り組みを考えたり、YMOE 社と学連の関係を整理して、わかりやすい関係にしていきたい。 また、地図事業についても新たな問題が出てきているので引き続き話し合っていく必要がある。</p> |

2. 大臣（仮称）の役職名決定

要旨：今年度より発足した特定業務担当幹事の役職名を確定させるとともに、その業務について認識を共有した。

| | |
|----|--|
| 遠藤 | <p>インカレ問題や全日本に関する議論など、現行の体制では学連で取り扱うのが困難な議題がいくつか存在する。幹事長の負担軽減ならびに、長期的な視点に立って継続的な議論を進めていくために、担当幹事を新設することが承認された。</p> <p>今年度の担当幹事は 丸山（インカレ・技術委員会担当、東北 4） 上野（公認大会ワーキンググループ（以下公認大会 WG）、東京工業 4） の 2 名である。</p> <p>それぞれから、今年度の展望について簡単に説明してもらおう。</p> |
| 丸山 | <p>技術委員会に関しては、これまで大西さんと連絡が取れていなかったのが現時点では未確定な部分が多いが、今後は技術委員会の業務を委託してもらって、</p> |

| | |
|----|--|
| | サポート体制を確立していききたいと考えている。 |
| 大西 | 学連枠計算や学連合宿の取りまとめなどは、担当幹事に委託していききたい。競技規則とインカレ規則に内容の不一致が散見されるので、そちらの究明も協力して進めていく。 |
| 丸山 | インカレに関して、学生全体からの意見を吸い上げて実行委員会に伝達していききたい。インカレアンケートよりも学生目線なデータをとれるよう、学連主導で意見を集めるのが効果的なのではと考えている。 |
| 遠藤 | 技術委員会に関して補足する。シード選手関連など、担当幹事が主体となって行うべきでない業務も存在するため、技術委員会主体で動くようにするべきである。 これまでは技術委員会の業務の全体像を幹事会が把握できていない部分が多かったので、明確に把握していく必要がある。 インカレ運営には長期的な視点での制度設計が必要だが、インカレ実行委員会は単年度の組織なので建設的な改善が困難だった。過去のインカレ運営者を含んだメーリスなどを作成するなどして、継続的な議論が可能になる議論の場を固めてほしい。 |
| 上野 | 公認大会 WG でのこれまでの議論について説明する。 建設的な議論を進めるために、第1ステージから第3ステージからなるスケジュールが設定されており、現在は第1ステージである。スケジュールに関しては以下を参照。 第1ステージ…公認大会の理念についてメーリングリスト（以下 ML）上で議論 第2ステージ…理念を実現させるための枠組みについて ML 及び会議で議論し、19年2月の理事会にて中間報告を行う。 第3ステージ…中間報告に関するパブリックコメントを募集し、それらをもとに再び議論を行う。19年の5月に最終報告を行う。 |
| 上野 | 現状の議論の方向性としては、 公認大会の意義とは？その必要性は？公認大会に競技者が求めるものとは？ 現状の問題点は何か？ など、第1ステージにおける論点は非常に漠然としている上に、ML 上での議論であり、現状建設的な議論は生まれていない。 日本学連としてどのように働きかけられるのかを考えていきたい。 |
| 遠藤 | JOA 自体のビジョンがあいまいな部分が大きく、学連主導で議論を牽引するのは困難な部分も大きいと思われる。今後の議論の進展に期待したい。 |

3. 地区学連活動報告

要旨：地区学連幹事長より、今年度ここまでの活動と今後の活動予定について報告が行われた。

| | |
|----|--|
| 下江 | 中九四学連では 5/19,20 に学連新歓合宿を行い、5/19 に総会を行った。 今後は、7/1 に関西インカレに併設する形でロングセレを行い、7/8 にパーク O 関西滋賀大会に併設する形でスプリントセレを開く予定である。 |
| 林 | 岩手理科大学が準加盟校という形で北東学連に加盟することになった。確認は取れていないが、ある専門学校も加盟校となる見通しである。 今後は、ロングセレに関しては、6/3 の東大大会でセレクションの 1 回目を行い、8/12 の北東インカレでセレクションの 2 回目を行う予定。スプリントセレは 8/11 に開催する予定である。 |
| 渡辺 | 4/3 に総会を行い、5/26 に臨時総会を開催した。5/27 には学連全体の new イベントとしてペア O 大会を開催した。 今後は、6/24 にスプリントセレを、7/22 にロングセレを行う。 |
| 南雲 | 5/12 に東海学連のペア O を行い、同日に臨時総会を行った。 今後は、6/24 にスプリントセレを行い、7/1 の東海インカレをインカレロングのセレクションレースとする予定である。また、名古屋工業大学から 3 人新入生が入ったので、6 月中に名古屋工業大学が準加盟校となる見通し。 |
| 山下 | 5/14 に学連総会を行った。6/3 に東大大会に併設する形でロングセレを行い、6/24 に東海学連のスプリントセレに併設する形でスプリントセレを行う予定。 |
| 藤本 | 4/15 に第一回学連新歓を開催し、同日に関西学連総会を行った。5/13 に第一回定例戦を開催し、その後臨時総会を開いた。 今後は、6/17 の全日本大会に併設する形でロングセレを行い、7/8 のパーク O 滋賀大会に併設する形でスプリントセレを行う。7/21 には近畿オリエンテーリング連絡会が行われる予定。 |
| 遠藤 | 幹事会を各学連の問題点を相談する場としてもよいと思う。 北東学連について、専門学校は高等教育機関ではあるが、大学ではないため準加盟校化するのに問題があるかもしれない。 |
| 久野 | 昨年度、関東で埼玉コンピュータ専門学校の学生が学連登録したという前例がある。 |
| 海老 | 昨年度のチェックが甘かったのではないかと。少なくとも、昨年度の前例をもとに準加盟校化を認められる、という類のものではない。 |

4. 技術委員会報告

要旨：技術委員会より、今年度ここまでの活動と今後の活動予定について報告が行われた。

| | |
|----|---|
| 大西 | 今年度開催される世界大学オリエンテーリング選手権 (以下 WUOC) への選手派遣のために、4/7,8 に静岡にて代表選考会を開催し、代表選手を選考した。 学連合宿として、6/9、10 に八ヶ岳にて第一回日本学連合宿を WUOC 合宿に併設する形で開催する。 第二回以降については日程開催地などは現在検討中である。 |
|----|---|

5. 理事会報告

| | |
|----|---|
| 遠藤 | <p>理事会報告の前に、新歓フライヤーについて改めて認識を共有したい。</p> <p>フライヤーとは木村理事がティア OBOG から寄付金を個人的に募り、それを元資として作成するピラである。大学新生に対して、オリエンテーリングの存在を周知することを目的としている。</p> <p>デザインは学生から公募しているが昨年度は応募数に乏しかった。</p> <p>今年は早めに募集をかけるので、各地区学連で周知してほしい。</p> |
| 海老 | <p>具体的になにか行ったということないが、改めて理事会について認識を共有しておく。</p> <p>理事会は理事長、数名の理事、日本学連幹事長から構成され、春インカレの際に話し合いを行っている。</p> <p>役割としては、日本学連幹事会の議論の動向を監査し、社会人の見地からアドバイスを行っている。</p> |
| 遠藤 | <p>過去の幹事会においても、理事の方の助言は議論を進めていく中で重要なものになっている。新幹事もそのような認識を持ってほしい。</p> |

6. 各部署活動報告・会計報告

要旨：各部署局長より、今年度ここまでの活動について報告が行われた。

また会計より、2017年度の決算報告が行われた。

| | |
|----|--|
| 臼井 | <p>普及部としては、今後賛助会員募集の ML を流す予定である。</p> <p>各クラブの新歓状況を共有するために、アンケートをとることも考えている。</p> |
| 種澤 | <p>渉外部は引継ぎを行った。</p> <p>練習会申請回覧書を作成し、地元の方にテレイン利用状況を連絡している。</p> <p>今後は、全日本大会の後に、YMOE の山川氏と前任の堀江氏とともに、区長の方に日光矢板地区渉外を行う。</p> |
| 久野 | <p>事務局は3月末に引き継ぎを行い、新たに事務局員を補充した。</p> <p>今年度の学連加盟員登録を5/31にて締め切ったので、今後はJOAに今年度の競技者登録者のリストを送り、重複の修正を行う。</p> |
| 森河 | <p>事業部は引継ぎを行い、今回の幹事会の準備を行った。今後は総会の会場を予約する。</p> |
| 上村 | <p>広報部は前回幹事会の議事録を上げられていない。二人体制になっているので、今後は書き起こしの遅滞がないようにしたい。</p> |

| | |
|----|--|
| 竹内 | 会計は昨年度から引き続き、日本学連の口座への各種振り込みの確認を行っている。 |
| 竹内 | 活動報告と合わせて会計報告を行う。 |
| 大西 | 裁定委員会の地図代とは？2年前はこのような項目はなかった。 |
| 海老 | 裁定委員会の地図代はインカレの予算内に計上されているか確認すべき。 |
| 大西 | 学連合宿の補助は一回の開催につき3万円と認識している。 |
| 竹内 | 昨年度は技術委員会と連携ができていなかったため、19年度予算からは修正していく。 |
| 前田 | インカレアドバイザー派遣費は本当に0なのか？関ヶ原インカレの際にアドバイザーの交通費が発生していたはずである。 |
| 竹内 | 技術委員会からは報告は来っていない。 |
| 前田 | インカレの会計に含まれていないことは確認している。本人たちが請求していないだけでは？ また、先ほどの裁定委員会の地図代に関して、17年秋インカレの裁定委員会地図代は秋インカレ会計に含まれている。裁定委員会の地図代をインカレ会計か学連会計のどちらに計上するかはあいまいな点が多いので、認識を明文化しておくべきである。 |
| 遠藤 | 目的不明の振り込み金として計上されている500円は、多摩OLのクラブ員からの寄付金らしいが、詳細は不明。 |
| 竹内 | 事業部の予算の赤字について説明する。 後夜祭の会場代が想定より多くかかったこと、講習会の参加人数が見込みより少なく黒字にならなかったこと、コーチの交通費が想定より多くかかったことが原因である。 |
| 遠藤 | 幹事会の交通費も決して少額ではないので、出席者は積極的に議論に参加してほしい。 各部局の予算は例年の収支に基づいて算出しているが、適正な予算を組めるよう各部局長は検討してほしい。 |
| 海老 | 100万円程度の黒字が計上されているが、インカレミドルの黒字返金が黒字の大半を占めているのは財政的に健全とはいえないだろう。 |
| 大西 | インカレミドルは開催地域により黒字幅が変動しやすい。2011年度からは毎年黒字だが、4000円しか黒字にならなかった事例もある。 学連登録人数の増加による加盟金収入と日本学連所有の地図使用料により、近年は安定して黒字を出せているが、今後も継続的に会計状況を分析していくべきである。 |
| 前田 | 現時点で、学連の総資産はどの程度あるのか？ |
| 竹内 | 3000万円程度である。 |
| 遠藤 | 学連のプール金は地図委託事業で活用したいと考えているが、いわゆる新機軸事業の事例は発足3年間で6件にとどまっている。35周年記念事業などで今後の日本学連の活動に資する投資を行いたい。 |
| 遠藤 | 昨年度決算報告の承認をとりたい。 |
| | 全会一致(15)で承認。 |

| | |
|----|--|
| 竹内 | インカレアドバイザー派遣に関しては、可及的速やかに当人に問い合わせ確認を行う。 次回総会で承認をとる。 |
|----|--|

7. 後援申請大会承認

| | |
|----|---|
| 久野 | 京大京女大会、東北大大会、KOLC 大会から申請が来ている。 |
| 遠藤 | それぞれ、申請の提出期限は守れているか改めて確認したい。 |
| 久野 | 守っている。 |
| 遠藤 | それぞれ形式に瑕疵はないか確認したのち、議決の上で承認したい。 |
| | 京大京女大会の後援を全会一致(15)で承認。 |
| | KOLC 大会の後援を全会一致(15)で承認。 |
| | 東北大大会の承認を全会一致(15)で承認。 |
| 遠藤 | 大会が終わった後に報告書は提出されているか？ |
| 久野 | あまり来ていない。 |
| 遠藤 | 賛助会員の参加人数に応じて日本学連から各大会にキャッシュバックを行っているが、後援大会の開催後に報告書が提出される必要がある。事務局が積極的に報告書の提出を促すようにしてほしい。 |

8. 技術委員会について

要旨：技術委員会の業務を見直す動きがある。現状の問題の概要と、今後の展望について技術委員会担当幹事より説明された。

| | |
|----|--|
| 丸山 | まず学連合宿について。第一回の際には担当幹事として特に活動はできなかったものの、第二回以降は大西氏と連携していきたい。 |
| 大西 | 名大 OB の石山氏など、昨年の学連合宿のコーチとして招聘した OBOG たちの、技術委員会での立場が現時点で不明瞭である。 |
| 遠藤 | OB2 年目の方々に 2 月の学連合宿を開いてもらったものの、前幹事長の個人的な働きかけが大きく、全容はつかめていない。 |
| 大西 | 彼らは技術委員として活動しているわけではないが、技術委員会の仕事を積極的に行ってくれる人材は貴重であり、歓迎したい。 |
| 遠藤 | 丸山は若手 OB と連絡を取って、技術委員の仕事に興味がある人が誰で、どのくらいいるのかを確認してほしい。 |
| 大西 | 学連合宿の開催の際に若手 OB の手を積極的に借りていく方針には問題ないものの、自分の聞き及ばないところで学連合宿が準備されるのは問題があるので、学連合宿は技術委員会の主導で行いたい。 |

| | |
|----|---|
| | <p>というのも、近年、同期合宿など、学生が自分たちでクラブの垣根を超えた合宿を開いていこうとしていく動きがある。この動きにのって、山川氏が学連合宿の名前を借りて補助金の3万円を使おうと働きかけたことがあるが、学連合宿の趣旨と反するので反対し、実現しなかったという背景がある。</p> |
| 遠藤 | <p>技術委員会は学連合宿の運営を直接執り行う必要があるのか？</p> |
| 大西 | <p>その点について細かな規定はないものの、運営者の中に技術委員がいない場合補助金の請求など技術委員会としての活動に支障があるので、どのような形態であれ最低限関与してきている。</p> <p>近年では、一橋OBの細渕氏に技術委員になってもらったものの、技術委員会のMLに報告がなされないなどの問題点もある。</p> |
| 遠藤 | <p>学連のお金を利用する目的で合宿を運営されるのは明らかに問題だが、合宿運営の手伝いはできるが技術委員になるのを躊躇する人という人もいる。</p> |
| 大西 | <p>そのような人ばかりだと継続的な合宿開催が困難になる可能性がある。中心に立って積極的に運営をまとめる人が必要だが現状としては不在。</p> <p>かつてはWUOC合宿と学連合宿を分けて開催していたが、近年の体制では難しい。業務の特殊性が高いので、WUOC経験者に技術委員になってもらうのが理想ではあるが、断られてしまうことも多い。</p> |
| 遠藤 | <p>かつては各大学や地区学連のOBOGを技術委員に吸い上げる制度も存在したが、意欲のない人が採用されてしまい頓挫した。また、人脈の関係で関東在住の人が多く採用されると全国で合宿を開くのが難しくなる。</p> |
| 上野 | <p>学連合宿の時期や場所を固定にするのは？今年開催直前に要項が公開されたため、参加できなかった。</p> |
| 大西 | <p>4年前は、7月にWUOC合宿兼学連合宿を八ヶ岳で、9月に新入生向けの基礎的な合宿を甲府で、1月に関西方面で開催した。このようなサイクルがあるのが望ましいが、開催時期が変動しやすい秋インカレや、近年過密化している学生大会の日程に配慮すると、開催場所や時期を固定するのは困難である。</p> |
| 海老 | <p>そもそも学連合宿は必要なのかどうかという点で議論するべきではないか？</p> |
| 遠藤 | <p>昨年度は、練習環境に乏しい弱小校や中堅校のレベルアップのために運用していくという目的があったが、実際にその目的が達成されているのか、またはそのような大学にとって役に立っているのかを検討していく必要がある。学連合宿に関する議論は話が行き詰まりそうなので今回はここで切り上げる。</p> |
| 丸山 | <p>担当幹事として、自分に委託したい仕事について伝えてください。</p> |
| 大西 | <p>インカレエリートクラスの学連枠計算と、公示をHPにアップする。技術委員会による監査は必要だが任せたいと考えている。</p> <p>シード選出は任せられないが、シードの選出の仕方に議論の余地があるのでこちらの要望する範囲で関与してほしい。</p> <p>また、やや個人的な領域になるが、技術委員長の後継者を探したいので手伝ってほしい。</p> |
| 遠藤 | <p>WUOC派遣の業務に関して、学生が請け負える業務は少ないと思うが、幹事内で明確になっていないので教えていただきたい。</p> |
| 大西 | <p>大会エントリーや、代表選手の選考、強化合宿の主催、トレーニングキャンプ</p> |

| | |
|--|---|
| | 時の WUOC 主催者側との折衝、JOC との折衝などがある。本戦は現地入りする必要があり、本戦後のテクニカルミーティングに出席し、その情報をミーティングで代表選手に伝えている。本戦期間はとても忙しい。 |
|--|---|

山川克則氏が入室した。

| | |
|----|--|
| 大西 | インカレ規則と JOA の競技規則の不一致に関しては、まだ具体的な箇所を特定できていない。 昨年のインカレでは ISOM の更新に伴い現行の規約を一部逸脱したが、インカレ規則の更新は行えていないのが現状である。 総会で承認が取れるようにまとめていきたいので、担当幹事とはメールなどでやり取りを進めていきたい。 |
| 丸山 | 次回幹事会までに改正箇所をまとめ、総会で承認をとれるようにする。 |
| 山川 | 全日本エリート権を保持する選手を、地区セクション免除で 2018 年度のインカレロング選手権クラスに出場する特例措置について、技術委員会の HP で公表してほしい。技術委員会を交えた話し合いが十分でなく、議論が停滞していた。 |
| 大西 | 自分としては総数が増えることに反対したが、前幹事長の瀬川氏から特例措置の実施について連絡を受けたので認識している。技術委員会として今後公表する。 |
| 山川 | 特例措置に当てはまる選手のリストアップを渡す。トータルで男子 11 人、女子 10 人がセクション免除となる。過去の議論では男女各 5 人以上該当者が出たら考え直すという話だったが、学生が想定以上に健闘した。特例措置は今年度限りとし、公認大会を増やしていく方向に方針転換していく。 |

下江健史が退出。以降の議論には参加していない。

9. 全日本大会と公認大会について

要旨：全日本大会のプロデューサーが山川理事から西村氏へと交代し、状況が白紙に戻った。
今後のインカレと全日本大会とのかかわりについて、公認大会担当幹事より説明された。

| | |
|----|---|
| 上野 | 前提として、ここ 2 年ほど全日本大会の参加者が減少しているのに歯止めをかける施策について議論が続いている。 まず山川氏が全日本大会プロデューサーに就任してから、全日本大会に地区学連のセクションレースを併設して学生の呼び込みを図った。 すでに M/W21E 権を持つ選手がセクラスに出られないという問題点があったが、当時の見通し以上に学生が全日本 E 権を保持したので、見直しが急務である。 |
|----|---|

| | |
|----|---|
| 遠藤 | 全日本大会をセレクションレースとするかどうかを決定するのはその年の地区学連幹事だが、その判断によって地区学連に所属する選手が振り回されるといふ欠点がある。開催地が年度ごとに変化する全日本大会にセレクションレースを併設するのは強引な施策といえる。 |
| 上野 | 前述のとおり、全日本エリート権を保持する選手を地区セレクション免除とする制度は見直すことになった。 |
| 上野 | また、全日本大会を活性化させるため公認大会を増やそう、という瀬川氏の提案をもとに、今年度は学生大会が公認化する流れが起きているが、運営負担が大きく来年度以降この流れが継続されるかは先行き不透明である。 さらに、OBOG と地域クラブで運営されることの多い各学連のセレクションレースを公認大会にすることで、地域クラブの活性化とセレクションの質の担保を目指す動きもある。 |
| 遠藤 | 地域クラブのリソースと学生のリソースが完全に分断されているのが非効率という見方があり、それを一緒にして有効活用したい。 |
| 上野 | 関東学連スプリントセレが申請期限を過ぎていたために公認大会にならなかったが、同じく申請期限を過ぎていた東工大大会は公認となったなど、JOA の動きが一貫していない面も見られる。公認大会の在り方を見直すべきなのではないか。 |
| 遠藤 | 現行の公認大会の在り方について物申したい人は発言してください。 |
| 海老 | 開催するときと準備を始めるときのスパンがフォレストに比べて短くて済むスプリントの大会については、現行の申請期限は現状に沿っていない。 昨年度ミドルセレを併設した京葉大会に関しては、大会としては盛り上がったものの、開催クラブの運営負荷が大きいという問題点があった。 学連ごとに別コースを設定し、質を担保するのが厳しかった。 学生との接点ができたという点では地域クラブとしてメリットであった。 毎年セレ併設で大会を開くのは、クラブ員の人数が増えない限り難しい点が多いだろう。 |
| 上野 | 公認大会のブランド力を維持しつつ、公認大会を開催するハードルを下げるにはどうすればいいかを考えていく必要がある。日本学連の動きとしては、学生から運営者側としての意見と、参加者としての公認大会に関する意見を聞きたい。 |
| 遠藤 | 公認大会はもちろんのこと、全日本大会に対する学生の意見を吸い上げたい。椋の湖ロングは関西学連のロングセレとなったにもかかわらず、例年と比べて参加者が減少したので、その背景を運営側は認識してほしい。 |
| 山川 | 就任期間の全日本大会について評価すると結局のところ、全日本大会のブランドを高めることには成功したと考えている。特に、M20E においては過去にない高いレベルで大学生と高校生トップ層が競える場になると期待できる。 しかし、M20A の参加者が 30 人だったように、財務状況を改善するという JOA からの指令は果たせなかった。金銭的な事情もあり、これについて学生を責めるつもりは毛頭ない。 財政改善のためにも、JOA として全日本大会の構造を見直す必要がある。 |

| | |
|----|--|
| 遠藤 | <p>先述の関西の例もあり、全日本が学生の末端まで意識されるものになったかというところではない。</p> <p>公認大会を含めたトータルプランでの改善は学連としても必要だと考えている。</p> |
|----|--|

10. インカレについて

要旨：インカレの開催に関して継続的な議論/改革が必要な事柄が存在する。現状の問題の概要と、今後の展望について担当幹事より説明された。また、インカレの給料制に関する提案があったため、この是非に関して議論が行われた。

| | |
|----|---|
| 丸山 | <p>現行の大きな問題点としては、インカレスプリントの赤字改善、運営者人手不足の解消、運営者に日当を出すかどうかなどがある。また、実行委員会ごとに引継ぎが行われているかどうかを解明したい。</p> <p>学連としての働きかけとしては、スプリントをより魅力のあるものにするために、アンケートなどのデータをとり、実行委員会に渡していく。</p> <p>運営体制の改善に関しては学連としてどのように働きかければよいか不明である。インカレに携わった方の意見を聞きたい。</p> |
| 前田 | <p>スプリントの採算に関して。ロングとの共催で来ているが、スプリントのみの単独開催は難しいだろう。</p> <p>課題としては、財政状況と運営負担の2点があげられる。</p> <p>まず財政状況に関して。参加人数がインカレミドルリレーと比べて少ない。そのため収益が不安定であり、開催主体となっているクラブもほとんど利益を得られていない。</p> <p>モデルイベントも大きな収入源であるが、ロングトレインのモデルイベントとスプリント一般を同日に行うのはタイムスケジュール的に厳しく、参加人数があまり見込めない。</p> <p>次に運営負担に関して。インカレ品質でのスプリント運営に運営者が慣れておらず、運営ノウハウの継承についても課題が残っている。</p> |
| 遠藤 | <p>現状、幹事会とインカレ運営者間で議論する場がなく、両者は代替わりしていき、問題の解決が先送りになっている。継続的に議論していきたいが、議論のプラットフォームが必要である。</p> |
| 大西 | <p>現状ではスプリントとモデルイベントの共催は難しい。</p> <p>モデルイベントを廃止し、トレーニングトレインを数か月前に設定しその収益を使うという案もある。</p> |
| 遠藤 | <p>2年前、インカレスプリントに関してアンケートがとられた際はインカレスプリントへの関心が高くなかったものの、現在の現役世代はインカレスプリントが開催されて当たり前の世代に入れ替わったので、同様のアンケートを取り直す価値は高いと思われる。</p> |

| | |
|----|--|
| 山川 | 天平の丘は 600 人参加し、市街地スプリントを取り入れた大垣でも参加者数を増加させられた。インカレスプリントは定着してきている。 |
| 遠藤 | 大会を廃止してもよいと考えている人は少ないだろう。だからこそ、持続可能性を意識した議論を重ねていく必要がある。 |
| 細川 | 参加者数の増加が大会の持続可能性を考慮するキーワードになるだろう。今年度の秋インカレは例年と違い 3 日間大会となるが、今回の参加者数がどのくらいになるかは注視していきたい。 3 日間開催をスタンダードにするべきかを判断する試金石となるだろう。 |
| 前田 | 演出を強化するなど、大会自体の魅力を高めることによってまだまだ参加者数増加の余地はあると考えている。。 |
| 遠藤 | インカレスプリントの諸問題を議論するにあたっては、今回の駒ヶ根の動きに注目したい。 |
| 前田 | インカレスプリント発足の際に用意されたガイドラインを見直すべき時期にきている。多様なデータを長期的に集めて、トータルでの制度設計を検討すべき。 |
| 丸山 | ここまでの話をまとめると、学連の今後のアプローチとしては学生にインカレスプリントに関してアンケートを取り、議論のプラットフォームとなるグループを作り、駒ヶ根スプリントの結果を分析するという 3 点が必要だろう。 |
| 竹内 | インカレの給料制について提案したい。 前提として、インカレ運営は激務であるのに対しボランティアで行われており、過年度の報告書をみても度々問題視されている。持続的なインカレ開催のための体制見直しの一環として本議案を提案した。 概要は以下の通り。 ・財源は日本学連の会計を想定。 ・日当制。 ・対象は春秋インカレ両方。 ・試走、直前準備、当日運営など、現地作業を伴う日に支給。 ・支給総額の上限は一回当たり 25～50 万円程度。 将来的に日本学連会計の負担となる可能性は高いものの、現時点で預金残高に余裕があるので試行期間として試す価値はあると思われる。日本学連の他の支出を見直すことにもつながるだろう。 今後の予定としては、今回の幹事会で制度の枠組みを設定し、運営経験者の意見を取り入れつつ、第二回、第三回幹事会で細部を詰め、第二回総会での承認を目指したい。 今回の論点としては、給料制を取り入れるべきかどうか、取り入れないのであればほかにどのような施策が考えられるかの 2 点を議論したい。 |
| 臼井 | 協力者に対する交通費、宿泊費などは支払われているのか。 |
| 前田 | 交通費と宿泊費に関しては経費として落ちるので支払われている そのほかに、試走一回につき 500 円程度の弁当代は負担している。 |
| 海老 | 海老 給料というと税金を支払わなければならない、兼業禁止規定などもあり難しい。謝金という形になるだろう。 |

| | |
|----|---|
| | <p>また、日当があるからといって運営者が増えることにはつながらない。特に社会人にとって謝金は運営のインセンティブにはならない。時間の制約がある中、社会人が何をモチベーションに運営をしているのかを考え、何をケアすべきなのかを考慮すべき。</p> <p>運営環境を整えてほしい。例えば地図作成が遅れ、常態的にスケジュールが遅れることが運営者にとって大きな負担になっているので改善してほしい。</p> <p>また、例えば日光で開く際、運営のために山川ハウスに泊まりたいかというところではない。お金に余裕がある社会人なら自費でファミテックに泊まりたいという人のほうが多いだろう。自分が社会人になったときに運営したくなるかどうかを想像して議論すべき。</p> |
| 山川 | <p>インカレ会計が赤字になったときは学連から補填されるが、黒字になったらすべて学連に収める、という現行の規約の構造がおかしいのでは？</p> |
| 遠藤 | <p>給料として払える額には限度があり、運営者が満足する額を支給するのは困難である。可能性は希薄だが、学生が「運営者に金を払ってやっている」という意識を持つにつなげる可能性があり、危険である。ボランティア精神に対して少額のお金で報いようとするに大きな意味があるとも思えず、給料のためではなく恩返しという形で運営してもらおうほうがボランティアの構造としては健全である。インカレ資材の買い替えなどのほうが必要ではないか。</p> |
| 山川 | <p>日本学連所有の資材の所在がわからず、困ることが多い。資材リストは存在するのか。</p> |
| 遠藤 | <p>認知していない。本来なら資材リストを作成し、ラベルを張るなどして管理すべきであるが、行えていない。</p> |
| 竹内 | <p>これまでの議論で、給料制というより、運営環境の改善や資材への投資や管理についてフォーカスすべきということが分かった。</p> |
| 前田 | <p>インカレ資材を日本学連が買い取って、GPS ベストなど継続的に利用できそうなものを管理すべき。例えば昨年秋に導入し大規模な支出となった LED スクリーンなどは、数年計画で利用し、一回当たりの支出を抑えるようにしてほしい。</p> |
| 細川 | <p>なぜインカレ運営をやっているのかを考えてみると、やはり自分が現役の際に先輩方が運営してもらったという点は大きい。</p> <p>資材に関していうと、学連の介入でインカレ資材の GPS やスクリーンのコストが下がるなら、インカレ運営の魅力、インカレそのものの魅力を高めていくことにつながる。</p> |
| 細川 | <p>関ヶ原インカレでは、大型ビジョンのリースで2日間で70万円かかった。購入すると金額はさらに膨大になるうえに、保管場所などの問題もある。</p> |
| 海老 | <p>スクリーンの購入は現実的ではないが、例えばGPS ベストならほかの大会に貸し出して財源とすることもできる。</p> |
| 山川 | <p>不動の滝インカレではカラーコーンを日光市から借りることができず購入した。</p> |
| 遠藤 | <p>管理に手間がかからないテントやコーンなどは購入して継続的に使用したほうが良い。GPS などの電子機器は管理などの問題があるものの、他大会に貸し</p> |

| | |
|----|--|
| | 出して遊休化を防ぐのは良いアイデアだと思う。 |
| 前田 | 今後何に投資すべきかを洗い出すために、需要を調査する必要がある。 |
| 竹内 | 丸山と相談しながら、今後も考えていく。ありがとうございました。 |
| 山川 | 話がそれるが、来年度のインカレが両方日光矢板になりかねない。その場合、関東 OBOG の負担が大きくなると予想される。運営者のケアを議論していく中で今後頭の片隅に置いておいてほしい。 |
| 丸山 | 議論の場となるメーリスを作成した。今後 y-ML に投じて関係者を招待し、議論を始めたい。 |
| 遠藤 | 他の幹事も、インカレ改革については親近感のある議題だと思われるので参加者目線での改善案を提案してほしい。 |
| 上村 | 前回の幹事会で話題になった、インカレにスポンサーを付ける話はどうなったのか？ |
| 遠藤 | その提案には、インカレの参加費が高いという意見が背景にある。話はややそれるが、オリエンテーリングの相場観は他のスポーツと比べて低すぎると感じている。スポンサーを付けるかどうかを考える前に、オリエンティアの意識改革のほうが必要ではないか。 |
| 山川 | 以前スポンサーを募るために動いたこともあるが、そもそもオリエンテーリングは他のアウトドアスポーツよりスポンサー側にとって魅力がないスポーツであることが判明し頓挫したという経緯がある。 |
| 竹内 | 大型ビジョンに広告を流すという話が報告書にあった。 |
| 遠藤 | 大学生というセグメントに訴求したい企業があれば話がまとまるかもしれないが、正直なところ動く労力に対するリターンが見込めない。 |

11. インストラクタ講習会について

要旨：前回幹事会で山川氏が提案したインストラクタ講習会について、その経過報告が行われた。

| | |
|----|---|
| 山川 | 規則によると公認非公認にかかわらず、公開大会はインストラクタ資格を持つ者の監査が必要である。 公開の大会をやっているクラブはもれなく出てほしいが、誰かひとり出れば問題ない。地区学連のセレの三役になる OBOG にも出席を要請している。 日程は北東インカレの翌日に行く。弟子に監修させ、内容の濃い講習会にする。交通費・参加費を全額負担し、全国の大学に涉外問題のケーススタディと蓄積・共有を行えるようにしたい。 |
| 遠藤 | JOA 公認のイベントアドバイザーとの違いは？ |
| 山川 | インストラクタはイベントアドバイザーの下位の資格と捉えて支障はない。 交通費・参加費を負担して毎年実施するのはのは財政的に不可能だが、要望があれば続けたい。学生クラブの代替わりを考慮すると2年に1回やれば十分だ |

| | |
|----|---|
| | ろう。 |
| 遠藤 | 交通費に上限は設けるのか？ |
| 山川 | YMOE で制限を決めるが、公開前に幹事会に連絡する。学連広報にて広報してもらう。 |

12. 地図事業及び業務委託契約について

要旨：地図会計にかかわる報告や事業申請のほか、YMOE との業務委託契約について検討した。

| | |
|----|---|
| 遠藤 | まず前提として、この議題は非常に多様な話を包括しているので、新幹事は勉強して話についてきてほしい。 YMOE は、日本学連所有の地図販売と地図修正を委託されている。大雑把に言うとな、YMOE の前身のジェネシスマッピング社と日本学連が業務委託契約を結んでおり、後継の YMOE が日本学連と契約を結んでいる状況下にあるが、現行の規約とその契約内容に齟齬が存在する。 |
| 山川 | 具体的には、YMOE がインカレの地図印刷や学連の地図管理などを行うことなどが契約に明記されている。かつては事実上学連と山川克則個人としての専属契約を結んでいたが、学連と会社という形態で結びなおしたものがこの契約の出発点となっている。プログラムの印刷とメダルの作成に関しては契約を破棄しているが、矢板日光地区以外の学連所有の地図の印刷に関する契約などはいまだ有効である。 |
| 遠藤 | 話をまとめる。ジェネシスマッピング社との契約の項目は数度の更新によって改訂されているが、現在も有効なものがある。地図印刷に関して補足すると、著作権を学連が所有していないテレインでインカレが開催する場合であっても、YMOE が印刷を請け負う、といった形態をとっている。 この契約の何に注目すべきかという、添付資料に付した齋藤翔太氏の解説に詳しい。学生が目線・契約する業者が目線・インカレ運営者が目線・インカレの競技性担保が目線から契約の妥当性を検討する必要がある。 これらの視点をもって確認していく意識を持ってほしい。 また、契約の見直しのスパンを当初の5年から短くして、3年とする案が山川氏から出ている。 |
| 海老 | 1年で見直しにすべきである。申し出がなければ自動延長できる。 |
| 山川 | 5年というスパンで改善案を提案できなかった齋藤氏の反省があり、契約見直しのスパンを短くすることが提案された。 |
| 遠藤 | 委託管理契約の文面を直接確認して行く。第2条の調製とはなにか。 |
| 山川 | 契約上の専門用語に差し替えたにすぎず、文脈を大きく変換させるものではない。 注2に関して補足すると、OCAD の設定や印刷の専門知識に精通した者は少な |

| | |
|----|---|
| | <p>く、インカレの地図印刷品質の担保のために、地図業者が参入できるように契約に反映すべきである。</p> <p>注3に関しては、業務の一部を YMOE 以外に下請けしやすくする意図がある。修正素案には反映されていないものの、10 条の罰則規定も適正かどうか第三者の判断に委ねる必要があると考えている。</p> <p>例外事項に関して、学連所有でないテレインで学連合宿や講習会を行う際は、印刷契約は契約の拘束力が高すぎるのでその限りではない。</p> |
| 遠藤 | 幹事会としてはどのように動けばよいのか。総会で承認をとればよいのか。 |
| 山川 | 承認はとってほしいが、少なくとも学生目線でおかしなところがないか監査してほしい。 |
| 山川 | 更新案での契約期間は3年間で、先述した通り申し出がなければ自動継続される。手続き上更新の頻度が増えるため、1年間は避けたい。契約上瑕疵があったり、今後学連の金目当ての業者が新規参入してきた際に契約をすぐに打ち切れるような体制を整えたい。 |
| 遠藤 | 契約期間が1年間のほうが良いと思う人はどの程度いるのか？ |
| 海老 | 1年間のほうがいい。3年間である必然性はどこにもない。 |
| 遠藤 | 1年ごとに代替わりする身としては3年間でも5年間でも変わらないと感じる。 |
| 海老 | 地図販売はともかく、インカレに関する専属契約に関しては学生目線で契約の遂行状況などを監査するのは困難だと思われるので、理事会目線での監査も必要。幹事会と意思疎通をとっていくべきである。 |
| 大西 | 山川さんの緊急時に契約不履行にならないような仕組みはできているのか不安。 |
| 山川 | プロ同士でのバックアップ体制は形成していこうと考えている。 |
| 大西 | 地図のデータは学連は保持していないのか。 |
| 遠藤 | インカレの地図のストックなどもあるため、学生である幹事は極力データに触れるべきではない。 |
| 大西 | データの紛失を防ぐために、バックアップを理事内で保有するという手もある。 |
| 遠藤 | 規約上では、担当理事は地図データの原本を臨時に保管していることになっている。日本学連側でまったく保持しないのも問題点がある。 |
| 海老 | 幹事も理事もアクセスできる、信頼のおける cloud のサーバを借りるのはどうか。平時はパスワードをつけて閲覧者を制限する。 |
| 山川 | oddyssay の専門ページを作るのは、情報管理面で不安が残るので避けたい。 |
| 遠藤 | <p>話を整理する。契約素案に関しては、契約期間を1年間に変更するという点以外は問題ないだろう。学連側で地図データを管理できるような枠組み作りが必要であることが分かった。</p> <p>契約の文面は今回の幹事会で確認したので、総会での承認を待つ。</p> <p>また、日本学連の地図の運営に関する規約というものがある。日本学連が保持する地図の修正や、新機軸事業に関する規約である。こちらも契約の見直しが必要であり、今秋に齋藤氏、会計、遠藤、山川氏を交えた議論の場を設ける予定である。新幹事からも来てほしい。関西で開く予定なので、藤本にお願いし</p> |

| | |
|----|---|
| | たい。 |
| 藤本 | わかりました。 |
| 遠藤 | それでは、新規地図事業計画の報告書の監査に移るが、その前に改めて事業の概要について確認する。いわゆる新機軸事業と呼ばれているこの事業は、地図製作費用を日本学連のお金で負担し学生大会を活性化させる狙いがある。今年の5月に開かれた東工大大会は新規地図事業計画の第5弾であった。 |
| 山川 | 東工大大会の地図作成には弟子が大きく関与していたが、競技に耐えうる地図精度を担保できなかったエリアが存在した。そのアフターフォローとして、今後一年間は無償で行っていくことが反映されている。 |
| 遠藤 | 本来なら第5弾の新規地図事業計画で請求すべきエリア(19ha)があるが、申請期限が間近であったために手続きが間に合わなかったため、そのエリアの地図作製費は第6弾新規地図事業計画で調査したことにして後ほど請求される。すなわち、19haの部分は書面上第6弾で調査作図されたことになる。 |
| 遠藤 | 新規地図事業計画の第6弾で矢板高塩をマップ化して茨城大大会で使う予定である。その申請書と見積書の確認に移りたい。 |
| 山川 | 一部単価が安くなっているエリア(35ha)があるが、エリアの大半が水田であり調査負担が小さく、地図の結合部分でしか利用できないので単価を安く設定した。 |
| 遠藤 | 結局のところ、地図調査と作図にどのくらいお金がかかっているかはYMOEの言い値で決定している面があるものの、最近では新規エリアは1haあたり6000円、修正は4000円というラインがベースになっている。 また、新規地図作製事業は、個々の地図で利益を出すために行うものではなく、矢板日光地区でのオリエンテーリング活性化やインカレでの利用などを見越し、全体的な設計で利益を出していくために投資する性質を持つことは注意してほしい。 |
| 遠藤 | 新規地図作成事業は、日本学連所有の地図を増やすといより、地図作成能力に乏しいが大会を開く熱意のある大学クラブをサポートするという性質があるのは留意してほしい。第6弾新規地図作成事業についての幹事会での承認決議を行う。 |
| | 全会一致(14)で承認 |
| 遠藤 | インカレ優勝旗、優勝カップの修理代に関して承認決議を行う。 |
| | 全会一致(14)で承認 |
| 遠藤 | 資料には載せていたが、今回の幹事会では業務委託契約の歴史的変遷について触れることができなかった。繰り返しになるが、新幹事はよく読んで理解を深めておいてほしい。 |

13. アンチ・ドーピング啓蒙活動について

要旨：学生オリエンティアに対するアンチ・ドーピング啓蒙活動について、幹事からの意

見を募集した。

| | |
|----|---|
| 西嶋 | <p>日本学連におけるアンチドーピング活動を検討していきたい。</p> <p>活動目的としては、日本反アンチドーピング協会（以下、JADA）が公表した昨年度のドーピング違反5件のうち2件が学生だったことを受け、学生に対してアンチドーピングを啓蒙したい。</p> <p>フェアプレーの精神に反する上、健康に害があり反社会的行為であるドーピング行為をオリエンテーリング界から排除するという意義がある。</p> <p>ジュニアチャンピオン大会ではアンチドーピングを啓蒙するブースが設置されるなど、ジュニア世代にはアンチドーピング活動は浸透しつつある。</p> <p>学連としては、フェアプレーの徹底によるインカレの価値向上・加盟員の保護・クリーンな組織であるというアピールにつながるだろう。</p> <p>具体的には、インカレの場でアウトリーチをとり、会場にブースを設けてもらったり、E-ラーニングシステムを活用したり、いぶきで広報したり、講習会を開くという取り組みが考えられる。</p> |
| 大西 | <p>年に一回は学連合宿の夜メニューで行っている。外部の講師を招くことも多い。今年度は6/23.24の富士合宿でも行う予定である</p> |
| 西嶋 | <p>今後のスケジュールとしては、今年度に概要を固め、3月幹事会までに来年度の方針を固め実行していきたい。JOAの落合氏からは、相談しやすい体制を整備するために、地区学連ベースで相談窓口を設けるという提案を受けた。</p> |
| 遠藤 | <p>相談窓口とは具体的にどこか。</p> |
| 西嶋 | <p>疾病のためにどうしても禁止物質を服用する必要がある学生が出てくるといった状況が考えられるので、禁止物質について理解のある人を用意したいということである。</p> |
| 上野 | <p>学生にアンチドーピングを広めるのが目的なのか？</p> |
| 西嶋 | <p>JADAやJOAから、インカレでのドーピング検査を拡大するという要請が想定される。柔軟に対応できるように、学生にアンチドーピングを啓蒙することは重要である。</p> |
| 遠藤 | <p>インカレなど、人がたくさん来る場で活動したほうが広報効果が高いだろう。</p> |
| 西嶋 | <p>インカレの会場だと観戦や応援があるので周知効果は薄いと思われる。モデルイベントや開会式のほうがより望ましいのではないか。</p> |
| 大西 | <p>最も理想的なのは開会式で行うことだが、本腰を入れて行うとまとまった時間が必要であり、スケジュール的に厳しい。学連合宿でやっても参加者が限られるため効果が薄いだろう。</p> <p>インカレで、抜き打ちで検査を行うのも現実的ではない。いずれにしても何かの媒体で情報を周知していく必要がある。</p> |
| 遠藤 | <p>複数の媒体で広報すべき。学連HPのトップにバナーを用意するのはどうか。また、インカレプログラムに掲載するほうが、いぶきに掲載するより宣伝効果が高いだろう。競技力向上のためにドーピングを利用するシチュエーションは考えにくいだが、花粉症や目薬の服用などで誤って検査に引っかかってしまう、という状況を避けるためにも学連で積極的に活動したい。</p> |

1.4. 渉外問題に関して

要旨：今年度5月に、2週連続で今後のトレイン利用に影響する渉外問題が発生した。渉外問題の原因である競技者マナー改善に関して、学連としての姿勢を確認した。

| | |
|----|--|
| 山川 | 2週連続で渉外問題が起きている件について認識を共有したい。埼玉県と兵庫県の事例である。 |
| 西嶋 | これに関連して、コンパスの使い方、正置の仕方と同じレベルで、一般来場者とすれ違う時には走行スピードを緩めるなどのマナーを新入生に周知してほしいとJOAの総会で新潟県協会会長の方が主張していたので共有しておく。 |
| 遠藤 | 競技者のマナーに関連して、日本の学生にまだスプリントオリエンテーリングを健全にやる風土がないのではないかと昨年の大垣スプリントの際に糸井川氏が強く主張していた。オリエンテーリングは他人の土地を借りて開催しているという意識は全体的にみるとまだまだ希薄であり、日本学連が本格的に責任をもって主導していく必要がある。 普及部に、競技者としてのマナーを啓蒙していく方法を今度の幹事会までに考えてきてほしい。 |
| 臼井 | わかりました。 |
| 山川 | 競技者に落ち度はなくても、特にパークOでは一般来場者からの苦情でトレインが半永久的に利用できなくなってしまうこともある。 参加者の競技リテラシーの問題は根が深く、日本でスプリントが成立しなくなる危機感をもつべき。 |
| 海老 | ジョグペースであっても、子どもが遊んでいる近くを駆け抜けるのは一般来場者から見ると危険行為である。レースの場合全力で走ってしまう人もいるだろう。コースセットの段階で渉外リスクを極力回避すべきである。 |
| 遠藤 | 渉外問題のケーススタディを見ると、一般人からみてスポーツとされていない可能性さえある。 |
| 山川 | 話はそれるが、関東ブロック会議で、Eカードのパンチの際に針穴を残さず、失格になったことに対して文句を付ける競技者の存在についても話題に上がった。競技リテラシーが低い競技者を減らすことは急務といえる。 また、以前静岡県協会に富士地区での来年度のインカレ開催を打診したところ、以前の大会での学生の競技マナーの悪さを理由に開催を断られてしまった。このままでは矢板日光地区でしかインカレを開けなくなってしまう可能性がある。 |
| 遠藤 | マナーの悪化のために、トレインクローズにつながる事例が起きており、回りまわってインカレの開催が困難になりかねない。この件については地区学連ごとの集まりの場で周知して行ってほしい。 |

15. 渉外 ML の管理について

要旨：現在広報部の管轄となっている uofj-ML であるが、業務分掌を見直したい。

| | |
|----|---|
| 遠藤 | 前広報部長の坂野氏からの提案である。現在は広報部が管轄しているが、渉外 ML を広報部が管轄する理由がわからず、構造的には事務局の管理とするほうがスムーズなのではという指摘を受けている。 |
| 久野 | 他の仕事量が多いので現行の体制では難しい。 |
| 上野 | 広報部が現行のまま管理していけばよいのではないか。 |
| 遠藤 | 広報部としては仕事量が多くなってしまうため。ほかの部局に振りたいという意図があるのだろう。ほかに余裕がある幹事や部局は名乗り出てほしい。 |
| 西嶋 | 仕事量に余裕があるので、引き受ける。 |
| 遠藤 | 西嶋は広報部長の山川と連絡を取って引継ぎを行ってほしい。 |

16. 次回幹事会について

| | |
|----|--|
| 遠藤 | 次回幹事会は9月30日開催の東北大大会の前日、9月29日に宮城県内で行う。宿と会場の予約を進めてほしい。 |
|----|--|